

《第132回》 令和六年六月の作品

〈六月十四日（金）於・文京シビックセンター5D〉

指さして子が母を呼ぶかたつむり (一江)

食卓に薫る真紅の薔薇一輪 (孝昭)

またたびの白さが映える奥羽線 (貴美)

紫の沸き立つやうな四葩よひらかな (正雄)

大往生甘酒すすり眠りけり (正佳)

降りかかる小雨ものかは三社祭 (奉男)

語ること尽きて涼しや友とゐて (芙紗)

城跡に啄木の歌碑苔の花 (隆治)

駅員の指さす先に揚羽蝶 (前歩)

原爆忌人種差別のゆえなのか (平六)